



ひまわり職員のひとりごと

【第7話】 吃音（ことばがどもること）編

ことばがどもることを吃音（きつおん）と言います。言いたいことばの音は頭に浮かんでいるのに、その音がスムーズに出ない状態で、次のような話し方が見られます。



【吃音の原因】

はっきりしていません。親の接し方、ストレスや家庭環境、本人の性格（緊張しやすい、不安感が高いなど）によるものではありません。

【発症しやすい時期】

2～5歳で始まることが多く、約8%のお子さんに成長の過程で認められます。大人で吃音のある方は、人口の約1%です。

【吃音の波】

吃音症状の出方には、波があります。症状が目立つ時期と目立たない、あるいはまったく見られない時期を繰り返します。朝昼晩で、あるいは週から月、年単位で変化する場合があります。

＊随伴症状が伴うことがあります。発話を引き出すために現れる身体の緊張や運動で、「舌や口、顎の運動」「首を前後に振る」「手足の運動」「前屈」「腰を浮かす」等、様々あります。

＊「えっと、えっと」とか「ぼくね、ぼくね」といったように単語や文節全体を繰り返すのは、吃音ではありません。



ひまわり言語聴覚士A

吃音のあるお子さんの関わり方で、大切なことをお伝えします。
 ・お子さんの話し方に注目するのではなく、話したい内容に耳を傾ける、話す内容に注目しましょう。
 ・最後まで話を聞きましょう。
 ・「落ち着いて」とか「ゆっくり話してごらん」とか話し方へのアドバイスをしたり、言い直しをさせたりするのはやめましょう。
 ・周囲のお友達やご兄弟にも、真似したりからかったりしないように伝えましょう。

「落ち着いて」とか「ゆっくり」とか声を掛けてあげるのは、なぜやめた方が良いのですか。



ひまわり言語聴覚士A

吃音の症状は、緊張しているから出るわけでも、落ち着いたら出ないわけでもありません。リラックスして落ち着いている時に症状が出る方もいらっしゃいます。その声掛けは症状の改善に繋がらず、話し方に注目されると、「自分の話し方はおかしいのかな？」などと、自分の話し方を意識するようになり、「吃音は悪いもの」という認識に繋がる可能性があるからです。



ウサギ主任

吃音は治りますか？なにかトレーニングが必要ですか？と御相談されることがあります。世界中で吃音が改善するトレーニング方法が研究されていますが、どのお子さんにも有効なトレーニング方法はまだ確立されていません。吃音が出始めたお子さんのうち、約8割は自然に改善すると言われていますが、約2割のお子さんは、幼児期が過ぎても吃音が続きます。



ひまわり言語聴覚士B



ひまわり言語聴覚士A

ですので、症状の波に一喜一憂せず、周囲の大人は適切な関わり方をすることが大切です。周囲の吃音への正しい理解、対応は、吃音のあるお子さんにとって、話したいことを安心してのびのびと話せる環境に繋がります。

もう一つ。

・お子さんと吃音の話が出来る関係になりましょう。話しづらさ等の意識は子どもでも早いうちから持っている場合があります。保護者の方がわかってあげていることは安心感に繋がります。吃音の話をする事が、症状の悪化には繋がりません。



ひまわり言語聴覚士B

吃音の話をお子さんとするのは、親としては少し構えてしまうかもしれないにや。でも、お子さんが「ぼ、ぼ、ぼぼくねってなっちゃうんだ。」などと話してくれた時に、「ぼ、ぼ、ってなってもそのまま話してね。」「困ったことがあったらいつでも教えてね。」と話せたら、「このままでいいんだな」とお子さんが思える環境に繋がるにや。吃音を悪化させないためにも、とっても大切なことだにや。



ネコ所長



▲その他のエピソードはこちらから

ひまわり発達相談センターでは、主に就学前のお子さまとその保護者（市内在住）を対象に、相談や支援を行っています。成長・発達に心配があるときは、お気軽にご相談ください。（電話またはFAXによる事前予約制です。）

住 所：習志野市秋津3-5-1

電話番号：047-451-2922 FAX番号：047-451-2002





ひまわり職員のひとりごと

【第8話】育てにくさを感じることも

一見すると「こどものわがまま」「しつけのせい」などと誤解をされてしまうこどもの行動について、ひまわり発達相談センターの職員が「ひとりごと」として解説していきます。

ひまわり職員のひとりごと

子育て中に「この年齢ならこれができて当たり前なのに、なぜできないの」と不安に思ったり、育てにくさを感じたことはありませんか？

ちょっと待って！
もしかして
困っている…のかも？

一見分かりにくいかもしれませんが、そのお子さんや保護者には何か事情があるのかもしれないとまずは想像してみたいと思います。

《お子さんの状況》

- ・何回注意しても言うことをきかない
- ・注意するとさらに問題行動が増える
- ・話をしているそばからどこかに行ってしまう
- ・言葉の意図を理解できていない
- ・指示とどんどんずれてしまう
- ・感覚に敏感、または鈍感



《保護者の状況》

- ・何回も同じことを伝えていて、もう疲れた
- ・周りの人から「〇歳なのにできないの？」と言われプレッシャーがかかる
- ・なんでわかってくれないの
- ・叱責と反抗の悪循環になってしまう



ひまわり心理判定員&保育士のつぶやき+ネコ所長



ひまわり心理判定員

理由として、

- ・周囲の状況や相手の反応を読み取ることが苦手
 - ・見通しが持てず、初めての事を予測することが難しい
 - ・言葉をそのまま受け止めてしまう為、言葉の意図を読み取れない
 - ・気持ちの表現の仕方がわからない
 - ・注意すると否定された思いで気持ちが不安定になってしまう
 - ・視覚情報を受け取る力が強すぎて、見るもの全てに反応してしまう（環境に左右されやすい）
 - ・優先順位の処理や切り替えが苦手
 - ・感覚の偏りがある
- など様々な理由が考えられます。

裏面に続く

お子さん自身も実は困っているのかもしれませんがね。保護者の方が、お子さんのつまずきがどこにあるか見つけてあげると、その後の関わりの方法を探っていく手立てに近づくとと思います。



ひまわり保育士

言葉で伝えるだけでは、なかなかイメージできずに同じことを繰り返してしまうことがあります。言葉で伝えるだけでなく、視覚的な支援、つまり目に見える方法で何回でも確認できる関わり方も有効です。例えば、これからのスケジュールを写真や文字で知らせておくと、見通しが持ちやすくなり、不安な気持ちが落ち着く場合もあります。

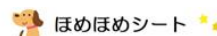
感覚の偏り（耳をふさぐ、目の前のものをすぐ触る、においに敏感）は、お気に入りのアイテムやおもちゃを持たせるなど、お子さんがそれに触れている間は落ちつけるようなグッズを利用するのも良いと思います。



ひまわり心理判定員

「お片付け上手ね」と褒めるとさらに手伝ってくれることがあります。好ましい行動をしてほしい時に、「〇〇しようとしているの？すごいね!」と褒めると、その後の行動に変化が出てくるかもしれません。

※ひまわり発達相談センターや市役所などで配布しているライフサポートファイルに「ほめほめシート」の様式が入っています。



ほめほめシート

ほめたい行動 ・これから伸ばしてほしい ・続けてほしい・進めたい	子どものお名前 が喜ぶ ほめ方（言葉かけ）	子どものお名前 が喜ぶ ほめ方（立ち姿・声など）



ひまわり保育士

言葉は、すぐに伝えることができ便利だけれどもすぐに消えてしまう情報だから、目で見て何回も確認できる視覚的な支援の方が安心だにゃ。

大人も、メモを取ったり、写メを取ったり、忘れないように、目で見て確認する工夫をしているのと同じなんだにゃ。

子育てはうまくいかないことの連続だにゃ。ほめほめシートなどの方法をうまく活用しながら、親子が楽になっていくことが望ましいにゃ。

そして、いつも頑張っている保護者にエールを送りたいにゃ!



▲ライフサポートファイル
ほめほめシートはこちらから

「何か事情があるのかもしれない」、「あの子も何か困っているのかもしれない」といった**あたたかい目で見守る**ことは、お子さんとその家族を応援する力になります。

ひまわり発達相談センターでは、主に就学前のお子さまとその保護者（市内在住）を対象に、相談や指導を行っています。成長・発達に心配があるときは、お気軽にご相談ください。（電話またはFAXによる事前予約制です。）

住 所：習志野市秋津3-5-1

電話番号：047-451-2922 FAX番号：047-451-2002



▲その他のエピソード
はこちらから



▲ホームページ
はこちらから